

第 119 回 東葛しぜん観察会

千葉大園芸学部と戸定が丘の歴史・自然を巡る

野坂 みよ(松戸市)

日 時：2015 年 11 月 8 日（日）9 時 30 分～12 時 天気：小雨～雨

場 所：千葉大園芸学部と戸定が丘歴史公園（松戸市）

参加者：大人 19 名、指導員：12 名

担当指導員：田中・野坂・草野

今にも降り出しそうな空模様、小雨でも大丈夫でしょうと実施することになった。一般参加申込み者には、「実施しますが無理をしないで」と、手分けして電話連絡をした。松戸駅に集まる頃には雨が降り出し、集合場所の変更や電車の遅れ、担当者のアクシデントなどに素早く対応し、観察会は定刻、3班に分かれ、足元に気をつけながら坂川へとスタートした。指導員として初担当、不安な気持ちで一杯でした。

坂川は、かつては大変汚れた川でしたが、改修事業が実り、今ではアユやトンボも見られる街なかの憩いの水辺となっています。運良く川沿いのムクノキの実にオナガの群れが集まり、間近に見ることが出来た。松戸神社には御神木のイチョウやケヤキの大木がある。境内は、雨にも関わらず七五三の家族連れで賑わっていたため、説明は簡単にして先へ進んだ。道を隔てた所で珍しいナギイカダが赤い実をつけているのを見つけて、初めての見る方が多く、「かわいい、葉っぱの上に乗っている」など大喜びであった。坂川沿いに進み、徳川慶喜が眺めたという場所から、当時と変わっていない風景をしばし楽しんだ。また、江戸川から逆流防止のために造られた明治時代のレンガ造りのメガネ橋を見て、県道の橋として現在も使われる千葉県最古の構造物であると説明を加えた。

途中の JR 線の陸橋から浅間神社の森（極相林）やこれから訪れる戸定が丘の眺望を楽しみながら、千葉大学園芸学部へ進む。平成21年に創立100周年を迎えた明治の面影を残す所があり、創設時の面影を残しているレンガ造りの旧正門から静寂な校内へ入った。緩やかな坂道を登るとクスノキの大木が並んでいるのに驚きの声が…、鬱蒼とした廻廊を進むとやがてロックガーデンの枯れ滝石組、スダジイやイイギリなどを見上げながらイチョウの門へ、当時の最先端の洋風庭園として造られ100年の歴史を刻んだイタリア式、フランス式、イギリス風景式など、今も学生達の実習の場となっている庭園の景観に触れながら雨の中を進んだ。

庭園内には、タギヨウショウ（多行松）、混ぜ垣、ドイソトウヒ、香ばしいシダレカツラ、ユリノキ、刈り込まれたチャボヒバ、ゴッホで有名なイトスギ、トゲナシニセアカシヤの古木、ヒマラヤスギの巨木、春に芳しい花を咲かせるミヤマガンショウ（深山含笑）など、たくさんの樹木があり、個性あふれる様々な樹形などを観察した。

最後に庭続きの戸定が丘歴史公園に進んだ。庭のモミジは色づき始めていた。ダイオウショウなど様々な樹木がある園内を一周し、無事観察会を終えた。

参加者からは、「①色々な木に触れて楽しかった。②思った以上に自然が豊かで感動した。③雨ならではの風情を楽しむことが出来た。」などの感想をいただきました。

最後に、初担当で緊張の連続でしたが、指導員の皆さんのご協力に感謝しています。

